

令和8年度

春入試

茨城大学大学院人文社会科学研究科

入学試験問題

人文科学専攻

令和 8 年 度

茨城大学大学院人文社会科学研究所

春入試

入学試験問題（専門科目）

試験科目

専攻 （ 人文科学 ）

コース （ 文芸・思想 ）

専門領域 （ 美術史学 ）

試験区分 （一般）

問題冊子ページ数 1 ページ（表紙を除く）

解答用紙枚数 2 枚（問題冊子には綴じこまれていません）

人文科学専攻 入学試験問題（専門科目）

専門領域名（ 美術史学 ）

問1

次の言葉（概念）を美術史学の観点から簡潔に解説しなさい。（各 100～200 字以内）

- ① ゴシック様式
- ② イコノロジー
- ③ 返還問題

問2

美術の歴史においては、古今東西を問わず、過去の美術作品や異なる文化圏の作品の「模倣」や「引用」がしばしば行われてきました。芸術家にとって、過去の作品や異なる文化圏の作品を模倣して作品制作することに、いかなる意味や意図（芸術的意図のみならず、社会的・政治的意図も含めて）があったのでしょうか。

また、作品を見る鑑賞者は、「模倣」や「引用」がなされた作品をどのような観点から鑑賞し、評価してきたのでしょうか。

具体例（芸術家名や作品名など）を複数挙げながら、自由に論述してください。

文字数の制限はありませんが、解答用紙1枚（その2）に収めてください。

令和8年度

茨城大学大学院人文社会科学研究科（修士課程）

【春入試】（専門科目）解答例

専攻：（人文科学）

専門領域：（美術史）

試験区分：（一般）

- 問1
- ①・様式の年代、代表的な建造物や制作物の具体名が書かれているか。
 - ・様式の特徴を（ロマネスクやルネサンスの比較のなかで）適切に記述することができるか。
 - ②・パノフスキー、ヴァールブルクなど、この方法論の主導者の美術史家が記載されているか。
 - ・この方法論の特徴を適切に記述することができるか。
 - ③・文化財の「返還問題」として、コロニアリズムや帝国主義、あるいは世界大戦の時代背景に触れられ、具体的な問題の事例を挙げているか。
 - ・この問題に対する考察と見方が適切に示されているか。
- 問2
- ・美術における「模倣」・「引用」を適切に理解できているか。
 - ・出題意図に沿った解答が適切になされているか。
 - ・評価において、独創的な見解が示されているか。

令和 8 年 度

茨城大学大学院人文社会科学研究所

春入試

入学試験問題（専門科目）

試験科目

専攻 （ 人文科学 ）

コース （ 文芸・思想 ）

専門領域 （ 英語学 ）

試験区分 （一般）

問題冊子ページ数 2 ページ（表紙を除く）

解答用紙枚数 3 枚（問題冊子には綴じこまれていません）

人文科学専攻 入学試験問題（専門科目）

専門領域名（ 英語学 ）

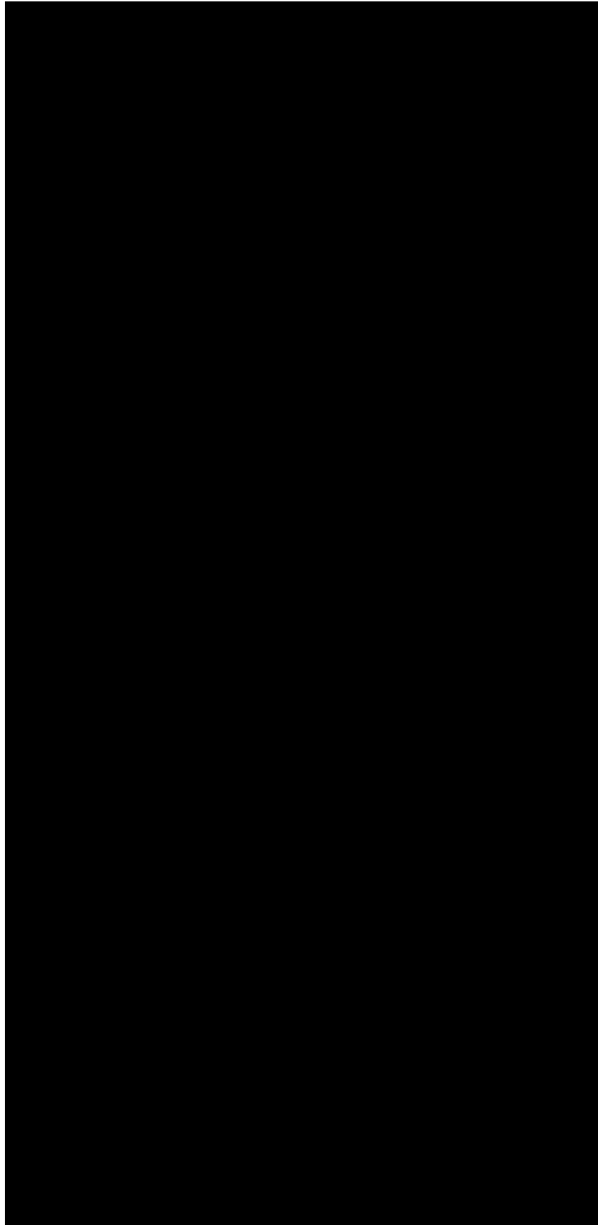
I. 次の談話における Jill の発話の「意味」を、文脈と発話行為の視点から、日本語で詳述しなさい。

Jack and Jill reach the locked front door.

Jill says: 'The key is under the doormat.'

Jack stoops to pick up the key and unlocks the door.

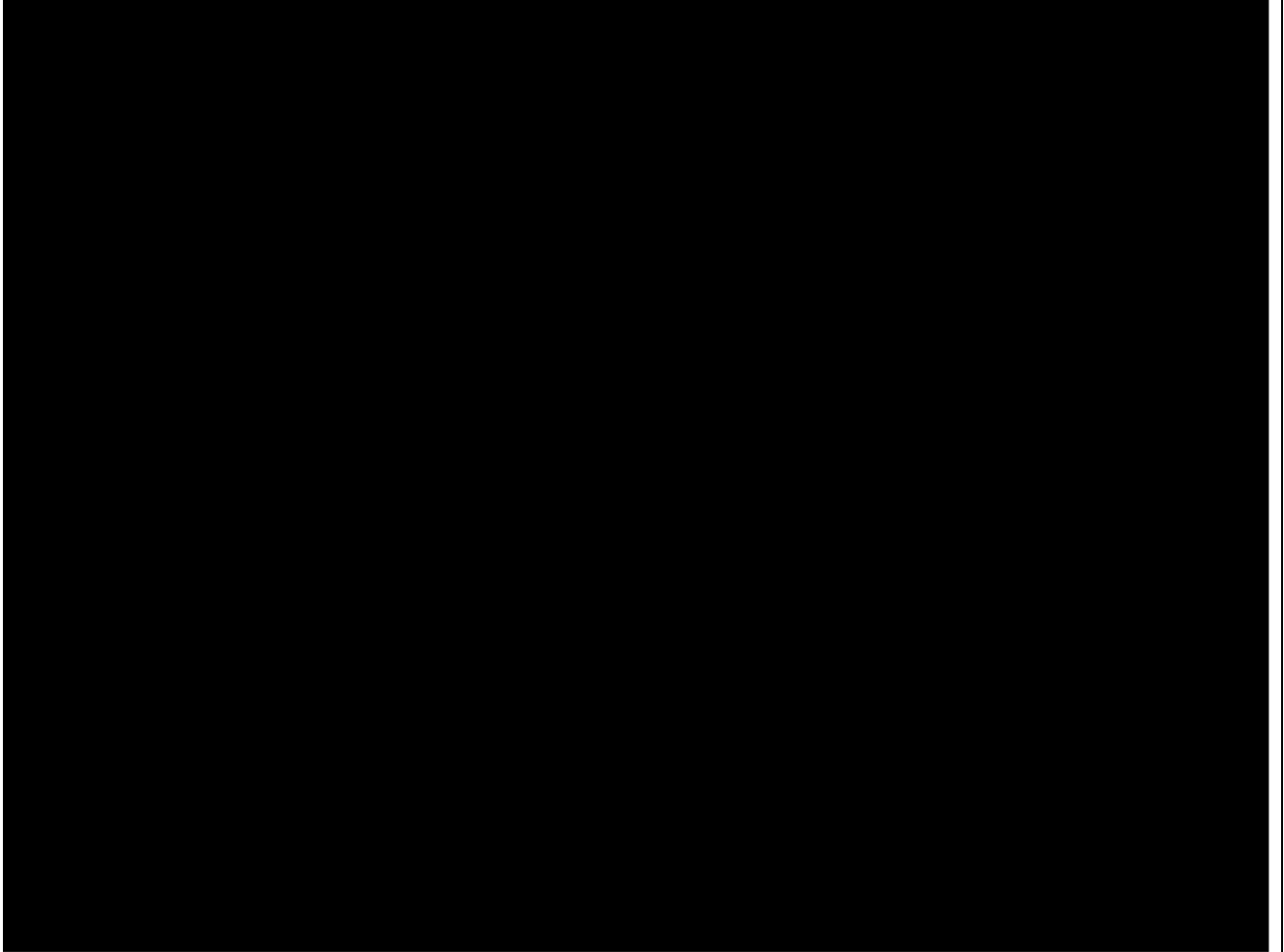
II. 以下の引用されている Robert Frost の詩'The Road Not Taken'の詩分析を、日本語で提示しなさい。詩分析においては、詩の形式、談話構造、比喩表現、詩的意味に必ず触れること。



人文科学専攻 入学試験問題（専門科目）

専門領域名（ 英語学 ）

Ⅲ. 次に示されている Virginia Woolf, *Mrs. Dalloway* の一節における談話構造の分析を、(i)自由間接話法と(ii)視点という観点から、日本語で提示しなさい。談話構造分析においては、テキストから自由間接話法の文を抜き出して、談話の中での役割を明示しながら論述すること。



令和8年度人文社会科学研究所

(人文科学 専攻)

春入試 問題・解答用紙等訂正用紙

試験科目名：英語学

問題・解答用紙等の訂正

Ⅱの指示文

誤：Ⅱ. 以下の...

正：Ⅱ. 以下に...

令和8年度

茨城大学大学院人文社会科学研究所（修士課程）

【春入試】（専門科目）解答例

専攻：（人文科学）

専門領域：（英語学）

試験区分：（一般）

I. 論述に次のポイントが含まれていること。

- Jill の発話は平叙文で、表面上は「ドアの鍵がドアマットの下に（隠して）ある」という意味だが、そうではない。
- Jack の行動から、Jill の発話は、表面上の平叙文の意味ではない効力、発話行為、が含意される文である。
- この場合の発話行為は、Jill の Jack に対する命令もしくは依頼の効力をもつと考えられる。Jill の発話の意味は、「鍵を使ってドアを開ける」もしくは「鍵を使ってドアを開けて」くらいの意味になる。
- Jill が発した平叙文の発話行為は、命令文の意味や（それほど丁寧ではない）依頼の意味になるが、発話行為の最終的な特定は、Jack と Jill の人間関係や文脈がより具体的に説明されないと、課題の例文からだけではむずかしい。

II. 論述に次のポイントが含まれていること

- この詩は弱強4歩格（弱強のリズムで1行が8音節）である。
- 表面的には1行が9音節ある詩行があり、詩行の韻律について、ある種の弱音節を韻律上見えないものにする(invisibleにする)、次の規則ありと推測可能。

[V, -stress] → ϕ / ____ [+son]

たとえば、第1スタンザ1行目の前置詞 in は、この規則により、韻律上音節を形成しないと解釈される。他に、この規則が適用される箇所あり。

- 詩行のリズムの鋳型と実際のリズムのずれは、少ないが、行頭においてみられる。たとえば、第4スタンザ2行目行頭の somewhere。行頭の弱強のフットに強弱の語が配置されている。また、特徴的なずれは、第2スタンザ3行目の grassy。主強勢は語頭にあり強弱のリズムだが、鋳型の弱強の位置に配置され、行中で韻律の倒置が生じている。

- ・脚韻は、各スタンザ、**abaab**のパターン。たとえば、第一スタンザあれば、**a**にあたる脚韻語は **wood, stood, could** で、**b**にあたる脚韻語は **both** と **undergrowth** である。
- ・この詩には不完全脚韻はないと解釈されるが、第4スタンザで特徴的な脚韻が観察される。**a**にあたる脚韻語が **sigh, I, by** で休止の直前もしくは文末にある機能語が強形で発音され脚韻語として使用されている。さらに**b**にあたる脚韻語は **hence** と **difference** で、**[ens]**の脚韻だが、**difference** は主強勢を担わない音節が脚韻していると解釈され、このペアも不規則な脚韻であると解釈される。
- ・詩の内容は、語り手が分かれ道に差しかかって、どちらに行くか考えて、最終的に、あまり人が通っていないと思われる道を選び、その選択の結果違いが生じたという内容である。
- ・**road** は実際の道ではなく、人生の **metaphor** であると解釈される。二つの道は、人生における二つの選択肢を意味し、最終行の **all the difference** は、人生において選択した生き方により生じた違いを表していると解釈できる。
- ・詩の鑄型と実際のリズムのずれ、および、不規則な脚韻、つまり詩形の特徴が、詩のテーマと密接に結びついていると解釈可能な詩である。
具体的には、第二スタンザ3行目の **grassy** の鑄型とのずれ、および最終スタンザの脚韻型は、詩のテーマにつながる箇所を提示する手段と考えられる。

III. 論述に次の点が含まれていること

- ・自由間接話法と判断される箇所
第3パラグラフ3行目：Was Evelyn ill again?
第3パラグラフ8行目：what a nuisance
第3パラグラフ9行目：Not that right hat for the early morning, was that it?
- ・談話構造における自由間接話法の役割
上記の自由間接話法は、主人公 Mrs. Dalloway の心中を、Mrs. Dalloway 自身の視点から言語化しているものである。自由間接話法は、形式的には、間接話法と直接話法の間中に位置づけられるものだが、ある種の客観的な語りのなかに、主人公の心中が言語化されている。
- ・引用箇所の談話の流れと視点
引用箇所は、大枠は、登場人物ではない第三者の語り手の引いた視点から小説中の出来事が語られている。しかし、自由間接話法の箇所で、移行はなめらかではあるがいきなり、視点が主人公の Mrs. Dalloway の視点からの語り（心中の語り）に切り替わり、その後、また第三者の語り手の視点に戻っている。

令和八年度

茨城大学大学院人文社会科学研究所

春入試

入学試験問題（小論文）

試験科目

専攻（人文科学）

コース（歴史・考古学）

専門領域（日本古代中世史）

試験区分（リカレント専門教育）

問題冊子ページ数 一ページ（表紙を除く）

解答用紙枚数 一枚（問題冊子には綴じこまれていません）

令和8年度茨城大学大学院人文社会科学部研究科

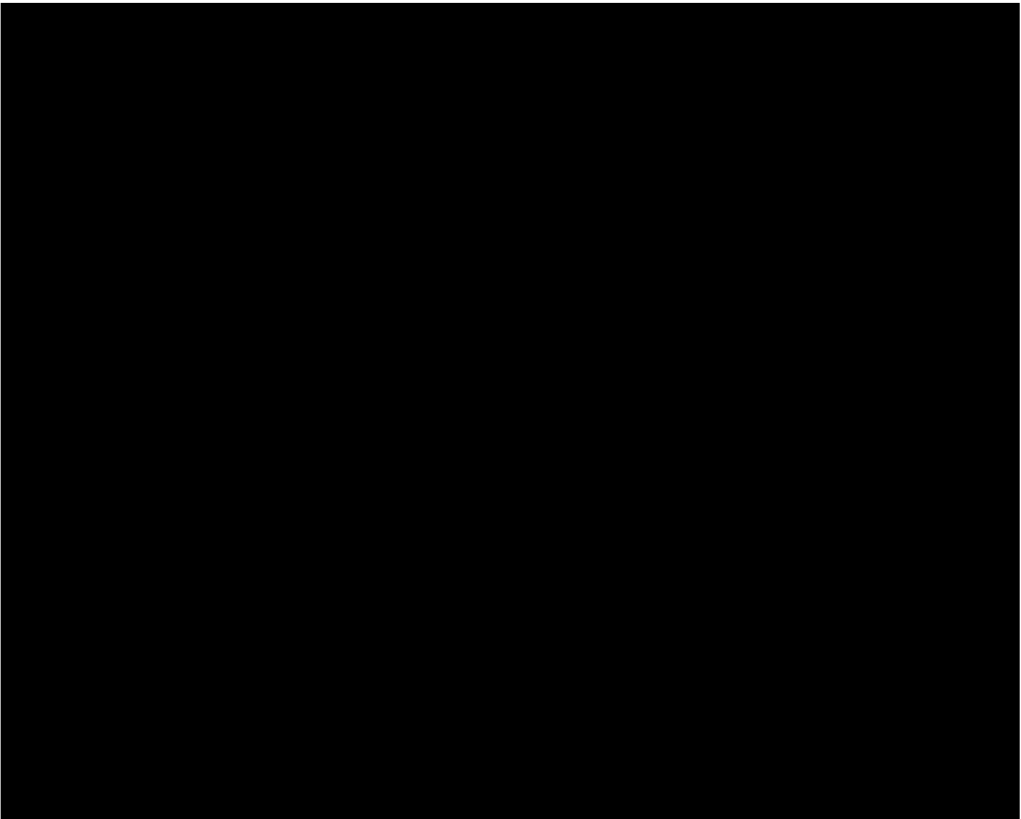
人文科学専攻 入学試験問題（小論文）

専門領域名（日本古代中世史）

一、鎌倉幕府の御家人制について、次の用語をすべて用いて論じなさい。

平氏政権 内乱 朝廷 権門 承久の乱

二、次の文書は、常陸守護・佐竹貞義が下野の国人・茂木知貞宛てに発給した書状である。まず、本文の大意をまとめ、それを踏まえて、史料として注目すべき点を指摘しなさい。



令和8年度茨城大学大学院人文社会科学研究所（修士課程）

【春入試】（小論文） 解答例

専攻（人文科学）

専門領域（日本古代中世史）

試験区分（リカレント）

問一

- ・ 出題意図に沿った解答がなされているか。
- ・ 解答に必要な専門用語が適切に用いられているか。
- ・ 五つの用語がすべて使えているか。
- ・ 御家人が身分表示だということが表現できているか。
- ・ 他の時代の武士身分との違いに言及できているか。

問二

- ・ 出題意図に沿った解答がなされているか。
- ・ 解答に必要な専門用語が適切に用いられているか。
- ・ 研究史が踏まえられているか。
- ・ 史料が正しく読めているか。
- ・ 時代背景が正しく認識されているか。

令和八年度

茨城大学大学院人文社会科学研究所

春入試

入学試験問題（専門科目）

試験科目

専攻（人文科学）

コース（歴史・考古学）

専門領域（日本近世史）

試験区分（一般）

問題冊子ページ数 一ページ（表紙を除く）

解答用紙枚数 二枚（問題冊子には綴じこまれていません）

令和8年度茨城大学大学院人文社会科学部研究科

人文科学専攻 入学試験問題（専門科目）

専門領域名（日本近世史）

一、江戸時代の軍役について、左の語句をすべて使用して説明しなさい。

兵農分離

石高

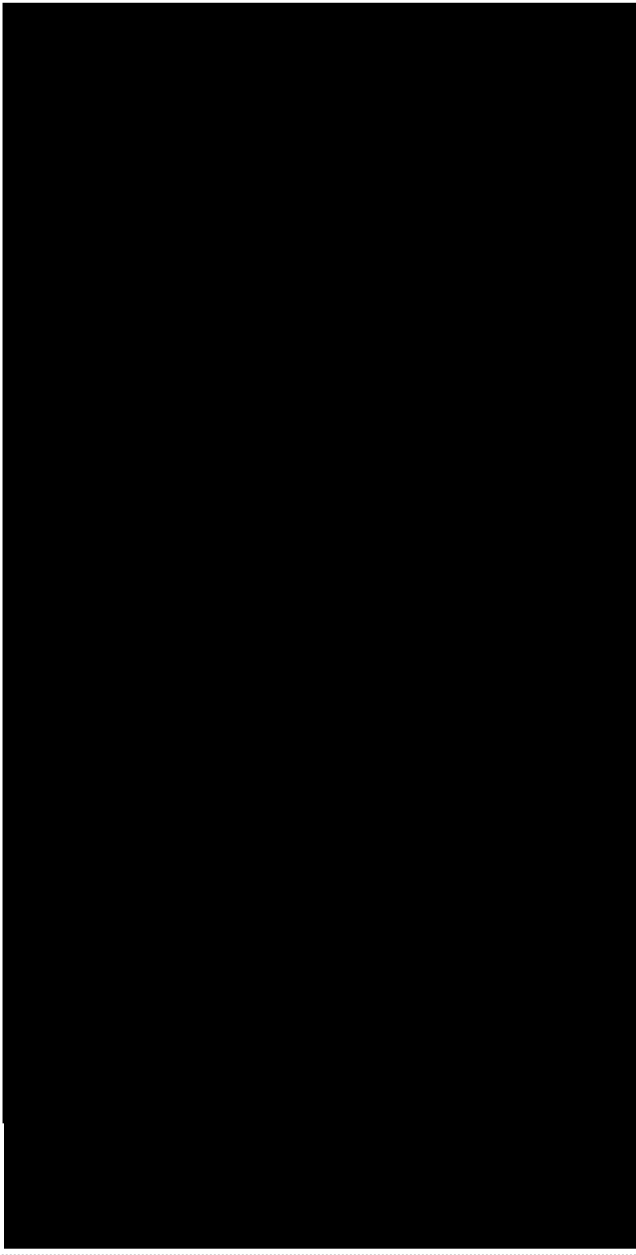
参勤交代

手伝普請

役知

百姓

二、左の史料は、土浦の商人・学者の色川三申が著した「片葉雑記」、嘉永七年（一八五
四）九月二六日付の記事の抜粋である。この史料を読み、次の設問に答えなさい。



問一 傍線部①に関連して、このとき大坂で何が起きたのか、概要を説明しなさい。

問二 傍線部②を書き下し文にして、さらに現代語訳をしなさい。

問三 幕府番城の在番（勤番）を務めることによる藩の負担と恩恵について、本史料の
内容もふまえて説明しなさい。

令和8年度茨城大学大学院人文社会科学研究所（修士課程）

【春入試】（専門科目） 解答例

専攻（人文科学）

専門領域（日本近世史）

試験区分（一般）

- 一
- ・ 解答に必要な専門用語が適切に用いられているか。
 - ・ 出題意図に沿った解答がなされているか。

二

問一 ロシア使節プチャーチンを乗せたロシア船ディアナ号が大坂湾に侵入し、天保山沖に投錨した。天皇がいる京都に近い大坂に圧力をかけることで、幕府との条約締結交渉を優位に進める目的があったとされる。

問二（書き下し文）

取り敢えず固め人数差し出し、猶又時宜に寄り追々手当等申し付くべく存じ奉り候

（現代語訳）

さしあたり警備の人員を派遣し、その上で状況に応じて後から追加の人員等を手配させるつもりでいます。

問三 ・ 出題意図に沿った解答がなされているか。

・ 藩の負担と恩恵の両面について解答できているか。とくに、史料の内容（大坂城代を務めることで最新の政治情報を得られるという恩恵もあるという点）をふまえることができているか。

令和8年度

茨城大学大学院人文社会科学研究科

春入試

入学試験問題（小論文）

試験科目

専攻（人文科学）

コース（心理・人間科学）

専門領域（行動機構論）

試験区分（リカレント専門教育）

問題冊子ページ数 1 ページ（表紙を除く）

解答用紙枚数 2 枚（問題冊子には綴じこまれていません）

人文科学専攻 入学試験問題（小論文）

専門領域名（行動機構論）

あなたの修士研究のテーマに対して心理学的アプローチをとることの意義について述べなさい。ここでのアプローチとは当該分野の知識、理論、発想法、方法論などを用いて研究テーマに接近することを指す。

令和8年度

茨城大学大学院人文社会科学研究科（修士課程）

【春入試】（小論文）解答例

専攻：（人文科学）

専門領域：（行動機構論）

試験区分：（リカレント）

- ・ 出題意図に沿った解答がなされているか。
- ・ 解答に必要な専門用語が適切に用いられているか。
- ・ 修士研究のテーマが明確に説明できているか。
- ・ 心理学的アプローチの内容が具体的に説明できているか。

令和 8 年 度

茨城大学大学院人文社会科学研究所

春入試

入学試験問題（専門科目）

試験科目

専攻 （ 人文科学 ）

コース （ 心理・人間科学 ）

専門領域 （ 行動文化論 ）

試験区分 （留学生）

問題冊子ページ数 1 ページ（表紙を除く）

解答用紙枚数 3 枚（問題冊子には綴じこまれていません）

人文科学専攻 入学試験問題（専門科目）

専門領域名（ 行動文化論 ）

以下に挙げる4問の中から、3問を選択して解答しなさい。指導を希望する専門領域の問題は必ず選択し、他の分野から2問選択しなさい。1問につき、1枚の用紙を使用して解答すること。

【行動機構論】因子分析における因子負荷と因子得点（または因子の尺度得点）の違いを説明しなさい。

【認知行動論】心的イメージ想起中の脳神経活動について、知っていることを自由に論じなさい。

【行動文化論】ある個人の社会化過程を考察するさいに準拠集団の把握が有効であることについて、具体例を示しながら説明しなさい。そのさい、「社会化」および「準拠集団」の定義を必ず含めること。

【生涯発達論】「ギャングエイジ」と呼ばれる9～10歳の時期に秘密基地を作り始める理由を述べなさい。

令和8年度

茨城大学大学院人文社会科学研究科（修士課程）

【春入試】（専門科目）解答例

専攻：（人文科学）

専門領域：（行動文化論）

試験区分：（留学生）

問【行動機構論】は、以下のとおり。

- ・当該問題で示されている分析法が適切に説明されているか。
- ・出題意図に沿った解答がなされているか。
- ・解答に必要な専門用語が適切に用いられているか。

問【認知行動論】、【行動文化論】、【生涯発達論】は、以下のとおり。

- ・当該問題で示されている事象が適切に説明されているか。
- ・当該問題に関連する先行研究が適切に引用されているか。
- ・出題意図に沿った解答がなされているか。
- ・解答に必要な専門用語が適切に用いられているか。

令和 8 年 度

茨城大学大学院人文社会科学研究所

春入試

入学試験問題（専門科目）

試験科目

専攻 （ 人文科学 ）

コース （ 心理・人間科学 ）

専門領域 （ 比較文化論 ）

試験区分 （ リカレント ）

問題冊子ページ数 1 ページ（表紙を除く）

解答用紙枚数 4 枚（問題冊子には綴じこまれていません）

人文科学専攻 入学試験問題（専門科目）

専門領域名（ 比較文化論 ）

* 1問につき、1枚の解答用紙を使用して解答すること。

【問1】 次の文中の [] に最も適切な語句を記入しなさい。

1. 19世紀後半に優勢であった [ア] は、人類の社会は単純なものから複雑なものへと向かう一方向的な進化の途上にあるとすると考えである。この考えの普及に寄与した H・スペンサーは C・ダーウィンの [イ] を社会の変化に適用した。アメリカの人類学者、H・モルガンは、人類社会の進化の過程を大きく 3 段階に区分し、[ウ] → [エ] → [オ] のように示した。
2. この考え方に対し、F・ボアズは、個々の文化はそれぞれの歴史を辿って形成されたものとして捉えるべきだととらえ、その後の人類学の方向性を大きく転換させた。各文化の価値を相対的なものととらえ、個別の文化の独自性と対等性を重視する考え方を [カ] と呼ぶ。この考えはボアズから後進へ引き継がれたものであり、他者の文化を自己の文化の基準で判断する [キ] (エスノセントリズム) を避けるために重要である。
3. 文化人類学の中でも重要な調査手法とされるのは、対象社会に滞在し、人々の日常生活に参加しながら観察を行う [ク] である。この手法の確立に貢献した代表的な人物が [ケ] である。この人物の代表的な著作に、トロブリアンド諸島での長期のフィールドワークに基づく [コ] がある。

【問2】 以下の用語を説明しなさい。

1. 民族誌 (エスノグラフィー)
2. 伝統の創造
3. 人類学の 4 分野アプローチ

【問3】 「オリエンタリズム批判」について代表的論者を挙げながら説明しなさい。

【問4】 「多様性の尊重」について、実例を交えながら自身の考えを論じなさい。

令和8年度

茨城大学大学院人文社会科学研究所（修士課程）

【春入試】（専門科目）解答例

専攻：（人文科学）

専門領域：（比較文化論）

試験区分：（リカレント）

問1

1. [ア] 社会進化主義 [イ] 『種の起源』 [ウ] 野蛮 [エ] 未開
[オ] 文明
2. [カ] 文化相対主義 [キ] 自文化中心主義
3. [ク] 参与観察 [ケ] マリノフスキー [コ] 『西太平洋の遠洋航海者』

問2

- ・ 内容について端的な説明がなされているかどうか。

問3

- ・ 出題意図に沿った解答がなされているか。
- ・ 解答に必要な専門用語、代表的論者の主張が適切に用いられているか。
- ・ 背景、意義、課題、限界が適切に説明されているかどうか。

問4

- ・ 「文化相対主義」の説明が適切になされているかどうか。
- ・ 主張の根拠となる実例が適切に示されているか。
- ・ 思考の過程が論理的かどうか。